

## (14) 道路行政の成果指標

道路行政においては、成果志向の道路行政マネジメントの一環として、平成18年度道路行政の達成度報告書・平成19年度道路行政の業績計画書を作成。

街路課では、「都市基盤の整備による市街地の防災性向上」、「踏切対策のスピードアップ」について成果指標を設定し、達成度の確認と、その結果を踏まえた取組方針を策定し、事業を効率的かつ強力に推進。

### 【道路行政の成果指標の達成度報告と業績計画①】

## 都市基盤の整備による市街地の防災性の向上

**防災上課題のある市街地は、3年連続で確実に解消。平成18年度課題のある市街地の割合は33.9%。事業のスピードアップが今後の重要課題。**

### (1)取組の背景と必要性

#### ■ 「20世紀の負の遺産」～防災上の課題のある市街地の解消～

これまで、高度経済成長期を中心に、急激な都市化の進展に対して郊外における住宅市街地の整備に迫られていた中で、既成市街地においては、計画的な市街地整備が図られず、家屋が建て詰まり、都市基盤の整備が不十分なまま放置された、いわば20世紀の負の遺産ともいえる防災上課題がある市街地が多く残されている。

ー現在、全国の人口が集中している市街地が約41万ha存在するが、その約3分の1が、「防災上の課題のある市街地」に相当する。

このような市街地においては、災害発生時、倒壊した建物などによる道路閉塞で車両の通行が阻害され、救助・救急、消防活動、住民の避難行動が遅れるなど災害に対する脆弱性が強く指摘されており、面整備や街路などの都市基盤の整備により緊急的に改善していく必要がある。

### (2)達成度報告(昨年度の取組と成果)

#### ■ 面整備事業、道路整備事業により、着実に課題のある市街地を解消

市街地の防災性向上のため、平成18年度も面整備事業を推進し、着実に「防災上課題のある市街地」を解消した。また、民間のノウハウや資金力などの活用による対策のスピードアップを図る観点から、民間事業者による事業促進にも取り組んでいる。

#### ■ 重点密集市街地内の都市計画道路の着実な整備

重点密集市街地内の都市計画道路の整備を推進し、平成18年度も供用した路線があるなど、着実に整備されているが、事業期間が長期となっており、スピードアップが今後の課題である。

### (3)業績計画(今年度の取組と期待される成果)

#### ■ 面整備事業、道路整備事業の着実な推進

課題のある市街地を解消するため、平成19年度も引き続き、着実に面整備事業、道路整備事業を推進していく。

#### ■ 特に課題のある地区約9,300haについて、面的整備を推進

「防災上課題のある市街地」の中でも、道路面積率が極めて低く、かつ老朽家屋が多いなど特に課題のある地区約9,300haについて、面的整備を推進する。

#### ■ 重点密集市街地の都市計画道路のうち「完了期間宣言防災路線」の重点的整備

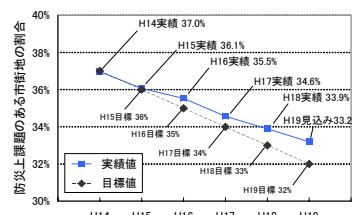
重点密集市街地内の都市計画道路のうち、防災上、緊急に整備する路線で、完了期間・5年以内の防災機能概成の宣言をした「完了期間宣言防災路線」について、重点的に整備を行う。

### (4)代表的な指標の動向

#### ■ 面整備事業や道路整備事業により、課題のある市街地の割合は33.9%に減少

「防災上課題のある市街地の割合」は、34.6%（平成17年度末実績値）から33.9%（平成18年度末実績値）と着実に減少。

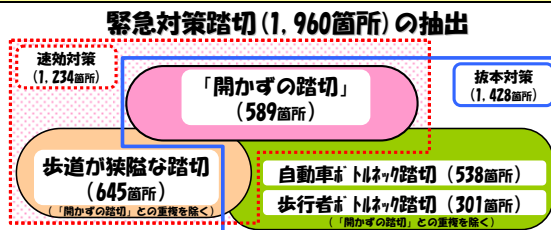
平成14年度実績		37.0%
平成18年度	実績	33.9%
	目標	33.0%
平成19年度	見込み	33.2%
	目標	32.0%



「平成18年度道路行政の達成度報告書・平成19年度道路行政の業績計画書」より抜粋

## 踏切対策のスピードアップ

全国の踏切を対象に総点検を実施。  
引き続き速効対策と抜本対策の両輪により、  
踏切対策のスピードアップを図る。



### (1)取組の背景と必要性

#### ■ 交通渋滞の大きな要因となっている都市部の踏切

我が国には全国で約3万5千箇所の踏切が存在（同様の面積で比較するとパリの20箇所に対し東京では約700箇所）し、特に都市部においては交通渋滞（踏切遮断により全国で約130万人・時間/日の損失時間）の主たる要因となっており、道路交通円滑化等の観点から、交通のボトルネックとなっている踏切に対し早急な対策が求められている。

#### ■ 「開かずの踏切」等への対策強化の必要性

近年、平成17年3月に東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の「開かずの踏切」において痛ましい踏切事故が発生したことなどを背景に「開かずの踏切」が社会問題化している。「開かずの踏切」は、踏切交通の安全性や地域分断への影響の観点から極めて問題が多く、抜本的な対策を図るまで時間を要する踏切に対しては、速効対策による取組みを緊急的に講じる必要がある。

### (2)達成度報告(昨年度の取組と成果)

#### ■ 踏切交通実態総点検の結果、「開かずの踏切」を含む緊急対策踏切1,960箇所を抽出

道路管理者と鉄道事業者の相互協力のもと、全国の踏切に対して踏切交通実態総点検を行った結果、「開かずの踏切」等の緊急対策踏切1,960箇所を抽出した。また、平成18年度から5か年間の整備計画の策定促進に取り組んでいる。

#### ■ 「開かずの踏切」に対する取組の進捗

平成18年度までの「開かずの踏切」の対策率は21%であった。平成22年度の目標値に向けて着実に推移しているものの、平成18年度は全国の踏切に対し踏切交通実態総点検を実施したため、整備計画の策定及び踏切対策が年度途中からの着手となり、目標値の32%には届かなかった。

#### ■ 主な対策の成果

平成18年度においては歩道拡幅や歩車道分離、賢い踏切の設置等の速効対策を実施した。また、「京成本線（海神駅～船橋競馬場駅間）連続立体交差事業」をはじめ、連続立体交差事業等の抜本対策により15箇所の「開かずの踏切」を除却し、交通渋滞や踏切事故の解消等が図られた。

### (3)業績計画(今年度の取組と期待される成果)

#### ■ 踏切道改良促進法の積極的な活用による着実な対策促進

整備計画の策定と踏切道改良促進法を活用した法指定等により対策の義務化を、より積極的に行っていく。

#### ■ 「速効対策」と「抜本対策」の両輪による総合的な対策を緊急かつ重点的に推進

整備計画に基づき、歩道拡幅等の「速効対策」と連続立体交差事業等の「抜本対策」の両輪により、総合的な対策を緊急かつ重点的に推進する。

### (4)代表的な指標の動向

#### ■ 「開かずの踏切」の速効対策率\*

社会問題化している「開かずの踏切」を「5箇年での速効対策による対策」を目標に掲げ、着実なスピードアップを図っていく。

【平成19年度目標 速効対策率 40%】

【平成22年度目標 速効対策率 100%】

※ 「開かずの踏切」の速効対策率：歩道拡幅や賢い踏切等の速効的な対策（除却含む）を実施する割合

